



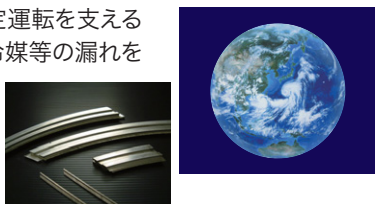
EKK Group CSR Report 2012

EKKグループ CSR報告書 2012
WEB版



3 EKKグループのCSRビジョン 大きな地球を守る、確かな技術

EKKグループの製品は、機器の安定運転を支えるだけでなく、機器内部の油、溶剤、冷媒等の漏れを防ぎ、地球環境の汚染防止に大きく貢献しています。



4 トップメッセージ

「より良い会社」を常に追求しながら、「より良い社会」の実現に貢献していきます。



6 暮らしと社会を支える EKKグループ

EKKグループの高度なシール技術、特殊溶接技術、動力伝達技術、バルブ技術等から生まれる多彩な製品は、人々の暮らしやさまざまな産業分野に役立っています。



8 特集 世界の自動車、建機を支える

自動車や二輪車に搭載される各種バルブ製品、建設機械や農業機械の足回りに使用されるフローティングシールを取り上げ、EKKの優れた技術を紹介します。



12 経営体制 CSRマネジメント

より信頼される企業となるため、事業の持続的発展が可能な経営体制を構築し、充実に努めています。



14 環境報告 環境マネジメント

環境方針を定め、環境マネジメントを推進する仕組みを確立して、効率のかつ効果的な実践を図っています。



17 環境報告 環境負荷削減の取り組み

地球温暖化防止と循環型社会の構築に向け、事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組んでいます。



20 環境報告 節電への取り組み

東日本大震災による電力不足に伴う、2011年度夏期の節電の取り組みを報告します。



21 社会性報告 従業員・地域とともに

従業員のためにも、また地域の人々のためにも、安全で衛生的な職場環境を整備していくことは重要な責務であると考えています。



22 社会性報告 品質への取り組み

お客様の信頼に応え続けていくために、品質を最優先した製品・サービスの提供に努めています。



24 日本と世界に広がる EKKグループ



編集方針

本報告書は、環境活動報告、安全衛生活動報告に加え、社会的側面に関する記載の充実に努めました。環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」および「GRIサステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006」を参考に作成しました。

■報告対象期間

2011年度(2011年4月1日から2012年3月31日)の実績が中心ですが、2012年度の取り組みを一部含んでいます。

■報告対象組織

イーグル工業株式会社/イーグルブルグマンジャパン株式会社/岡山イーグル株式会社/島

根イーグル株式会社/イーグルハイキャスト株式会社/広島イーグル株式会社/北海道イーグル株式会社/イーグルサービス株式会社/リグナムバイター株式会社/株式会社バルコム

■報告書発行日

2012年7月30日

■CSR報告書に関するお問い合わせ

イーグル工業株式会社
業務本部 CSR課
TEL.03-3432-3892
FAX.03-3432-5448
〒105-8587
東京都港区芝大門1-12-15
URL <http://www.ekk.co.jp/>



大きな地球を守る、確かな技術

EKKグループが世界に誇る、シール精密技術。

そこから生まれるさまざまな製品は、エンジンやプラント、産業機器等の安定運転を支えるだけでなく、機器内部からの油、溶剤、冷媒等の漏れを防ぎ、地球環境の汚染防止に大きく貢献しています。

EKKグループのブラシシールは、天然ガス火力発電所のCO₂削減に貢献しています。

電力安定供給の担い手として、注目を集める火力発電。中でも天然ガス火力発電は、天然ガスでガスタービン回して発電した後にその廃熱で蒸気を作り、蒸気タービンでも発電する複合的な火力発電のため、発電効率に極めて優れています。また、他の火力発電に比べ、窒素酸化物(NO_x)や二酸化炭素(CO₂)の排出量が少ないのも特長です。

EKKグループのブラシシールは、高温空気の封止部品としてガスタービン部に多数採用され、その優れた性能でガスタービンの熱効率を向上させ、より環境にやさしい運転*を実現しています。

*ガスタービン1基あたり、1年間で約450トンのCO₂(一般家庭100世帯が1年間に排出するCO₂量)削減に貢献しています。

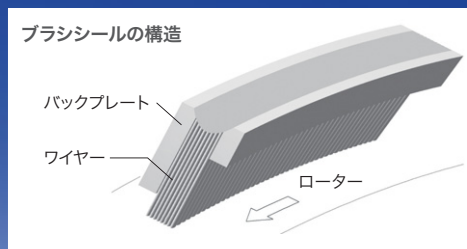


ブラシシール(部分)

耐熱合金のワイヤーが高温ガスの漏れを抑えます。

ブラシシールのシール内周部には、耐熱金属製の極細ワイヤーが緻密に層状に束ねられています。このワイヤーのたわみが軸の振れ回りや膨らみを吸収することで、漏れは常に最少に保たれ、高温環境下でガスをシールできるのです。

ブラシシールはもともと航空機ジェットエンジンのシールとして開発されました。近年は、熱効率向上のため、多くのガスタービンに積極的に採用されています。



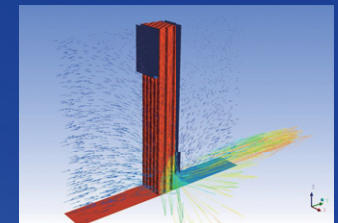
ブラシシールの構造

バックプレート

ワイヤー

ローター

CFD解析(数値流体力学解析)



ブラシシール周りの流体の流れとワイヤー部に発生する圧力分布



「より良い会社」を常に追求しながら、 「より良い社会」の実現に貢献していきます。

世界中の産業にとって、 なくてはならない存在であるために

イーグル工業株式会社は、1964年にNOK株式会社と米国シーロール社との合併企業として設立され、その後、日本をはじめ世界45カ国に子会社・関連会社100数社を有するグローバル・アンド・パブリックカンパニーに成長してまいりました。主力製品である各種ポンプ等に用いられる軸封装置メカニカルシールをはじめ関連機器を世界中の約5,000名の従業員の手により文字通り世界中で作られ世界中に販売しています。

直近の2012年3月期においては売上高962億円、営業

利益は62億円となりました。3カ年の中期計画の初年度が終わり、残りの2年間で、中期計画の目標である売上高1,200億円、営業利益150億円をグループ一丸となり目指しております。

このEKKグループが当面目指しているのは、お客様満足度(Customer Satisfaction)を高め、世界中のあらゆる産業における風水力製品の軸封装置に関するソリューション・プロバイダー(Solution Provider)としてなくてはならない存在価値を持つ中堅優良企業、グローバル・インテグラル・カンパニー(Global Integral Company)たることであります。それを確実にするための経営姿勢と哲学、具現化させるための各種活動について以下に触れます。



イーグル工業株式会社
代表取締役社長

鵜 鉄 二



良き企業市民として社会と共生し、さらに信頼される企業へ

EKKグループはNOKグループの主力企業の一つでもあります。そのNOKグループの哲学、「企業は株主、従業員及び社会三者の共有物である」という考え方を全面的に経営の端々にまで展開しています。すなわち、働く従業員の満足度向上(Employee Satisfaction)を図るために、あるいは社会に受け入れられるために、各種法令の順守を何よりも優先するコンプライアンスの徹底、自然保護の立場での環境経営の展開、あるいは環境保全への積極的貢献、労働安全衛生面に対する徹底した管理、製品の品質を確保するための各種品質活動の充実などであり、それらはISO14001、OHSAS18001、ISO9001、あるいはISO/TS16949の運用実施に表れています。

さらには、イーグル工業は自動車・建設機械・船用・エアロスペース以外の一般産業分野においては、ドイツに本社を置くメカニカルシールメーカーのブルグマン社とアライアンスを組み、お互いの存在を尊重しつつかつ補完し合いながら世界戦略を展開していますが、これらの思想はEBIアライアンス(Eagle Burgmann Industries Alliance)にも展開されています。

それらの考え方の徹底と実践が、社会において良き企業市民として共生し、従業員の会社への誇りと仕事に対する真摯な姿勢を育み、より質の高い仕事をお客様へ提供し続けることにより信頼を確保し、企業の最大の目標である適正利益の確保に繋がってきます。つまり私達はあくまで企業の長期的利益の確保を図ることを旨とし、その長期的利益の犠牲の元に短期的利益を追求することは絶対に行わない。いくら儲かるからといって、環境を破壊する恐れがあったり、将来とも品質の確保や供給責任を果たせない可能性のある製品やサービスの提供はしない。そして、経営者が代わろうとも、従業員が移り変わっていかうとも、いつの時代でも、いつまでも、EKKグループは、全てのステークホルダーが誇りを持てる、また社会からも愛される“良い会社”であり続けなければなりません。

“良い会社”であり続ける、これがEKKグループの最終的に目指している姿であり、また“より良い社会”の実現のために貢献していくことができる、これがEKKグループの願いであります。

「CSR報告書2012」はステークホルダーの皆様に対し、EKKグループの環境保全活動への取り組み、品質の向上および社会的な活動に対する考え方や実績を紹介させていただいております。

皆様の忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。

ステークホルダーとのかかわり



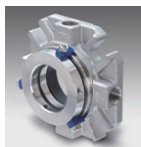
くらしと社会を支えるEKKグループ

EKKグループは、シール技術、特殊溶接技術、動力伝達技術、バルブ技術を大きな柱に、各種メカニカルシール、特殊バルブ、船舶用製品、航空宇宙用製品、ペローズ応用品、ダイヤフラムカップリング等をお届けしています。

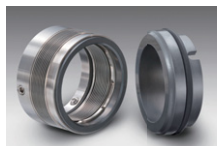
これらの製品は自動車、船舶、各種プラント、航空機やロケット等になくはならない存在として広く利用され、世界中の人々のくらしや産業分野で貢献しています。

石油化学、鉄鋼、医薬、水、紙、食品

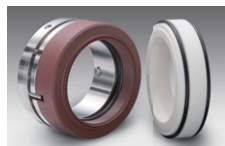
石油化学等の装置産業で大型コンプレッサーに使われるガスシール、工業用大型ポンプやプロセスポンプ等に使われるメカニカルシール、あらゆるケミカル分野で有効な攪拌機用シールユニット等をはじめとして、多様な製品群をそろえています。



グローバルカートリッジシール



メタルペローズシール



攪拌機用ドライシール



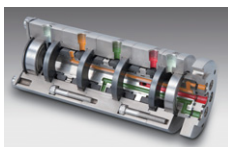
ドライガスシール

半導体製造

半導体製造装置やフラットディスプレイ製造装置の真空シールに使われる磁性流体シール、シリコンウェハーを研磨する化学研磨機やラッピング装置等に使われるロータリージョイント、ペローズ等があります。



磁性流体シール



ロータリージョイント



溶接金属ペローズ



カルレッツ®、スペリア
カルレッツ®は、米国デュポン社の登録商標です。

自動車、建設機械

カーエアコンやウォーターポンプのシール、エンジン等各種装置のソレノイドバルブ、二輪車等の排ガス対策用リードバルブ、建設機械や農業機械等の足回りに使われるフローティングシール等、多彩な製品を安定的にお届けしています。



ウォーターポンプ用メカニカルシール



カーエアコン用リップシール



自動車用バルブ製品

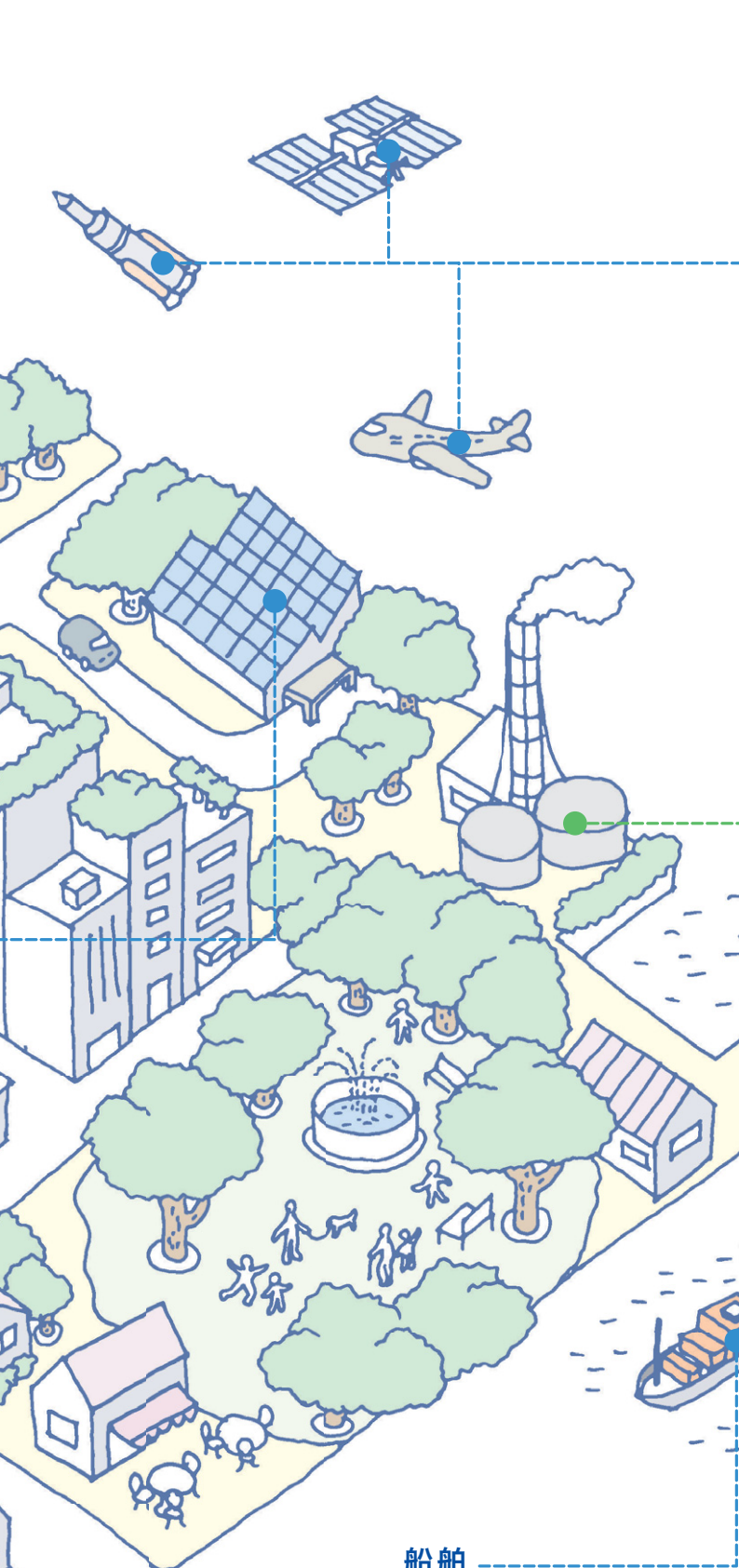


アクチュエータ・バルブ製品



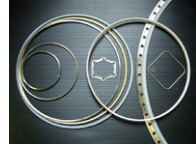
建機用フローティングシール





航空宇宙

航空機やロケットのエンジンメインシャフトやエンジンギアボックス、ターボポンプに使われる各種シール等を供給しています。国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」に採用されているペローズアキュムレータもEKKグループ製品です。



スタティックシール



セグメントシール



航空エンジン用シール



ペローズアキュムレータ



ブラシシール

エネルギー

各種発電プラントのポンプや弁、発電機に使われるシールを製造しています。また、発電用ガスタービン等の高温・高速条件下で使用可能な各種シールもお届けしています。



ノーコンタクトシール



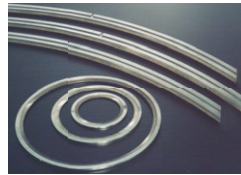
ダイヤモンドフレームカップリング



水車用シール



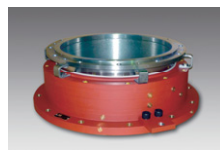
主蒸気隔離弁



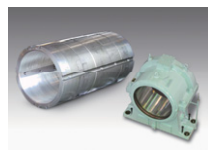
ブラシシール

船舶

プロペラシャフトに装着されて潤滑油の漏洩や海水の浸入を防ぐ船尾管シール装置や、船尾管軸受等を提供しています。空気を利用して油モレを完全に抑えた無公害の船尾管シールも多くの船舶に採用されています。



油潤滑用船尾管シール



油潤滑用船尾管軸受、
中間軸受



水潤滑用ゴム軸受

私の
エコ活動



イーグル工業(株)
AI・CI事業部 業務部長
西村 真樹

昨年度は東日本大震災の影響で電力不足が叫ばれるなか、AI・CI事業部で一致団結して節電に取り組みました。一方、私生活においてもグリーンカーテン等、楽しみながらの省エネ活動も実践してきました。今後も継続して、「人」に「地球」に優しい環境保全活動に取り組んでいきたいと思っています。

世界の自動車、建機を支える

EKKグループは、その幅広い技術力を活かし、さまざまな産業分野を支える多彩な製品を世界中にお届けしています。ここでは、その中から、自動車や二輪車に搭載される各種バルブ製品と、建設機械等の足回りに欠かせないフローティングシールにスポットを当て、豊かなくらしと産業に貢献する技術を紹介します。



自動車の安全、快適、環境に貢献する EKKのバルブ技術

自動車には、トランスミッション、サスペンション、ターボチャージャー、カーエアコン用コンプレッサ等、いろいろなところにバルブ製品が使われています。これらの製品には、使われる場所によっては高度な耐熱性、耐圧性が必要であるばかりでなく、自動車のエンジン振動、ポンプ脈動、さらに路面からの振

動等、外部から加わるさまざまな振動に耐えることが求められます。EKKはこれらの要求を満たし、独自の設計と加工技術によって、自動車の安全、快適、環境といった性能をさらに高める多くのバルブ製品を提供しています。

EGR*システム

排気ポートに送り込むエアクリーナの空気を制御するリードバルブ

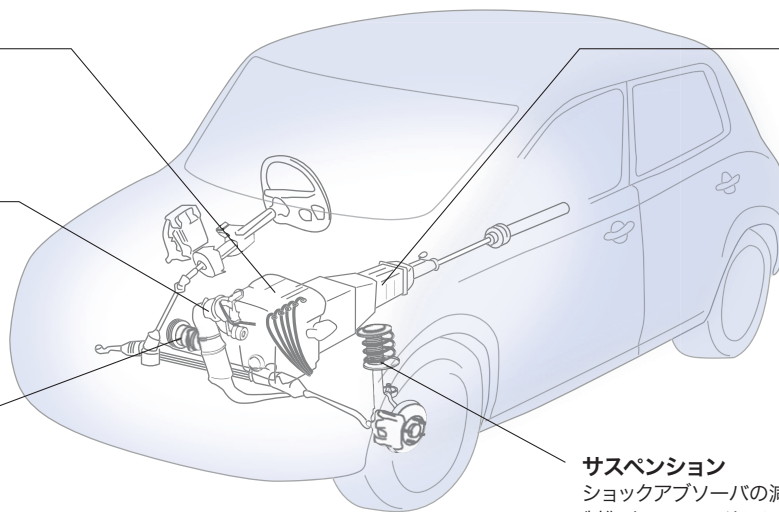
ターボチャージャー

過給器システムを制御するダイアフラム式アクチュエータ

カーエアコン用コンプレッサ

コンプレッサの容量を可変する制御弁

*Exhaust Gas Recirculation



トランスミッション

走行・変速を制御するAT用ソレノイドバルブ

サスペンション

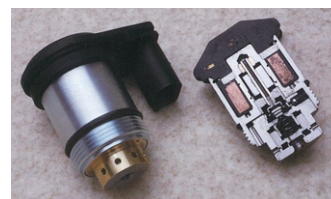
ショックアブソーバの減衰力を制御するソレノイドバルブ

市街地でも高速道路でも、快適な乗り心地を生み出すCES valve

CES (Continuously controlled Electronic Suspension) valveは、レース界でショックアブソーバのトップブランドとして知られるスウェーデンのÖHLINS Racing AB社との共同開発で生まれました。ショックアブソーバ内のオイル圧力を制御するセミアクティブサスペンション用ソレノイドバルブとして、メルセデス・ベンツ、フォルクスワーゲン、アウディ、ボルボ、フォード等欧米の主要メーカーに採用されています。

高速走行用に安定性重視のセッティングをしたサスペン

ションは凹凸路では乗り心地が悪く、また市街地走行用に乗り心地重視のセッティングであれば高速走行で安定感を損なう傾向があります。CES valveは、この相反する要求を同時に満たし、ドライバーの好みや路面状況に応じたドライビング状態を実現します。



CES valve





高効率運転を実現し、環境に貢献するターボチャージャ用ダイヤフラム式アクチュエータ

ターボチャージャ用ダイヤフラム式アクチュエータは、排気ガスのタービンへの流入量を調節するバルブ機構です。これによってウェイトゲートバルブの開閉やノズル作動を行い、ターボチャージャの過給圧を制御し、高効率運転を実現します。省エネ・低燃費につながるため、環境保全にも貢献します。

EKKでは1982年より量産を開始し、以後改良を重ねて機能と耐久性を向上させてきました。耐熱性、耐振動性に優れ、さまざまな使用環境に適した製品を各種開発・提供しています。

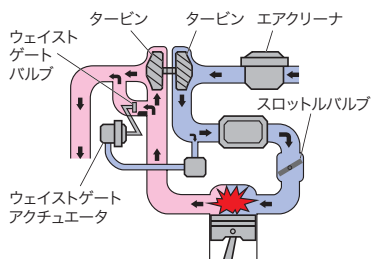


ウェイトゲートアクチュエータ



可変ノズルアクチュエータ

ウェイトゲートアクチュエータの仕組み



ウェイトゲートバルブを開けることで排気圧をタービンから逃がし、過給圧を制御します

「省エネ」で環境にやさしいカーエアコン可変容量コンプレッサ用制御弁

必要な冷房温度に応じて弁が開閉し、カーエアコンのコンプレッサ容量を連続的に変化させることで、燃費の大幅な向上に貢献します。電気式と機械式がありますが、電気式制御弁は、コンピュータにより、運転状態に応じたきめの細かい制御が可能です。

この電気式制御弁は、1997年、EKKが世界に先駆けて実用化に成功しました。現在ではエアコンが素早く効くモデルやコンプレッサ動力を推定できるモデル等、ニーズに対応した製品を多数供給しており、その性能と品質は高く評価され、高い世界シェアを有しています。



カーエアコン可変容量コンプレッサ用制御弁(電気式)

快適走行と低燃費を両立させるAT*用ソレノイドバルブ

自動車のトランスミッションは急速にオートマ化が進み、ステップAT(多段変速機)やCVT(無段変速機)等が主流となっています。いずれも油圧力を作動源にしてトランスミッション内のクラッチやブレーキの締結力を変化させることで、車両の走行、変速制御を行います。EKKでは、これらの油圧を電気信号でコントロールするソレノイドバルブを開発・生産しています。

AT用ソレノイドバルブは燃費、乗り心地を左右する極めて重要な役割を担っており、最適な制御を実現するため、構成部品にはミクロンオーダーの加工精度が求められます。EKKは2005年にその量産を始め、2011年度末までに累計で約5,000万個を世界に供給してきました。

*オートマチックトランスミッション

EKK・AT用ソレノイドバルブ技術革新の歩み



世界初。バルブ部と樹脂部品を一体化(ON-OFFタイプ)



静粛性を向上し、乗り心地へのニーズに対応(DUTYタイプ)



独自構造で制御安定性、耐コンタミ性を実現(低圧リアタイプ)



各部位のダイレクト制御で、性能をさらに向上(高圧リアタイプ)

排ガスの浄化を図り、環境保全に役立つリードバルブ

地球環境問題への関心が高まる中、世界各国で排出ガス規制が強化されています。リードバルブは、エアクリーナからの空気を排気ポートに送り込み、排気ガス中の未燃焼ガスを再燃焼させることで、ドライバビリティを確保しながら、有害物質の大幅な低減を実現します。

EKKはリードバルブを1975年より生産しており、高次元の機能設計と長年培ってきた高度な加工技術により、二輪メーカー各社が要求するハイレベルな仕様を実現しています。



リードバルブ(フラットタイプ)



リードバルブ(ハンガロータイプ)



過酷な使用条件で高い信頼性を発揮する EKKフローティングシール

高圧・大量の土砂浸入を防ぎ、内部の潤滑油も漏らさない！
「高密封」のシール性能

EKKでは1965年からフローティングシールの製造・販売を始めました。現在では非常に高い国内・世界シェアを有しています。

油圧ショベルやブルドーザー等の建設機械、およびコンバインやトラクター等の農業機械は、不整地を走行するため、通常の子車輪では凹凸に阻まれたり、自重で地面にめり込んだりします。そのため、クローラというベルトを車輪に巻き付け、それで接地して走行します。フローティングシールは、主にこのクローラを持つ機械の足回りに使用されています。油圧ショベルを例に

とると、クローラを駆動する走行モーター、クローラをガイド・保持するアイドル、そして上下のローラーの中にそれぞれ装着されています。

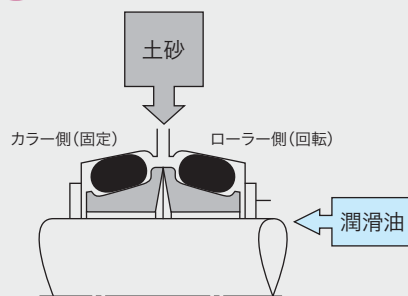
フローティングシールは、機器内部の潤滑油と、外部から浸入してくる土砂をシールします。通常は土砂が水等の液体と混じり合ったスラリー（泥、ぬかるみ）という環境で使用されることが多いため、スラリーと潤滑油を確実にシールし、機械の安定した走行・稼動を長期にわたり支えることがフローティングシールには求められます。稼動環境によっては多量の土砂が高圧でシール部に浸入する場合もあることから、この点を考慮した設計、仕様であることが重要です。

フローティングシールの装着部

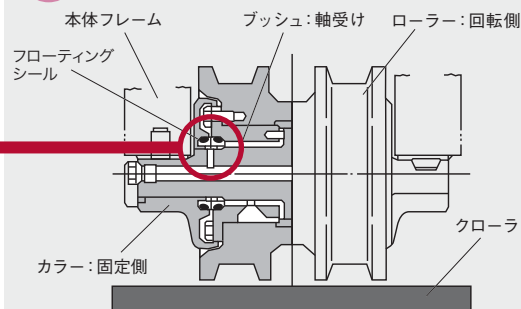


建設機械の過酷な稼動環境

フローティングシールの構造



下ローラーの構造





独自に開発・製造した材料の採用で、スラリーによる摩耗や、へたりを改善

フローティングシールの構造は極めてシンプルです。金属環のシールリングと、ゴム材のOリングまたはパッキンという2つの部品で構成されています。一般的に、これらの部品の劣化（Oリングのへたりや、シールリングの摩耗）や、シール部への土砂の堆積または固着によるスラスト方向の追従性低下等により使用限界となります。

EKK製フローティングシールは、長期にわたる過酷な作動環境下で、しゅう動（滑って動く）面の荒れや摩耗が少なく、潤滑特性としゅう動特性を活かしながら土砂と潤滑油のシール性を確保できる設計となっています。

シールリングはスラリーによる摩耗を防ぐため、高硬度の特殊鋳鉄を用い、独自の鋳造技術で製作しております。また、Oリングやパッキンは、グループ企業であるNOK（株）と共同開発した、温度特性、耐圧縮永久ひずみ性、耐油性に優れたゴム材料を使用しています。



各種フローティングシール

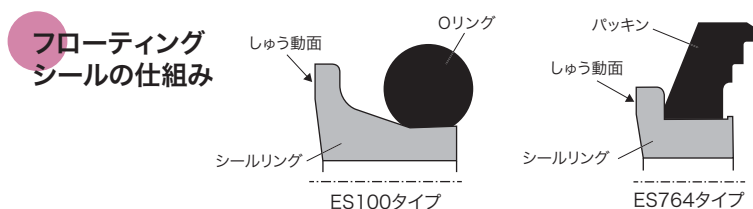


フローティングシール断面

お客様のニーズに応じて、サイズを幅広くラインナップ

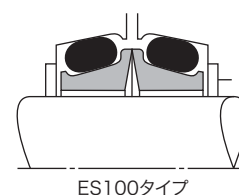
EKKでは、Oリングを使用したES100タイプとパッキンを使用したES764タイプの2タイプのフローティングシールを製造しており、シールリング内径でφ35mmからφ429mmまで、サイズを幅広くラインナップしています。ES100タイプは主に油圧ショベル等の建設機械に、またES764タイプは農業機械等に使用されます。このほか、掘削装置やコンベアー、セメントミキサー等にも使用実績があります。

フローティングシールのシール機能は、ゴム部品（Oリングまたはパッキン）を変形させることによって生じる力でシールリングのしゅう動面を押し付けること、およびゴム部品のフローティングシール側と機器本体側とが接触することによって作用します。このとき、ゴム部品の接触面は密着しており、しゅう動することはありません。これによってスラリーと潤滑油を確実にシールできるため、フローティングシールは環境汚染防止にも大きく貢献します。

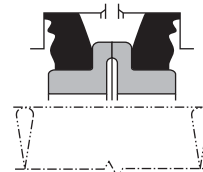


フローティングシールの取付け

ES100、ES764とも、使用にあたっては同じものを2個組み合わせて取り付けます。



ES100タイプ



ES764タイプ

開発者の声

当社のフローティングシールは、長年の歴史の中で種々の改良を加え、シール性と耐久性を向上させてきました。しかし、粘土質地域や寒冷地といった厳しい稼働条件下では、一層ハイレベルの性能が求められています。現在、その実現に向け、さらなる改良に取り組んでいます。

機能向上とコスト低減を推し進め、地球環境にもやさしいフローティングシールを世界中のお客様に届けて行きたいと考えています。

イーグル工業(株) AI・CI事業部
シール設計部 シール設計2課

森原 健太郎/坪井 一/小林 雅智



フローティングシールの開発メンバー(左から森原、坪井、小林)



Eagle Industry (Wuxi) Co., Ltd.
無錫
生産技術部
朱 錫鋒

大家好。私は設備管理課に所属しています。2011年度は省エネ活動の一環として、リードバルブ用レーザー印字機の定格電力を低減(3.5kW→1.2kW)することで、使用電力を削減しました。今後も空調運転制御の見直し等を行い、無錫の自然を守るエコ活動を展開していきます。

CSRマネジメント

社会的責任を果たしながら、より信頼される企業となるため、事業の持続的発展が可能な経営体制を構築し、充実に努めています。

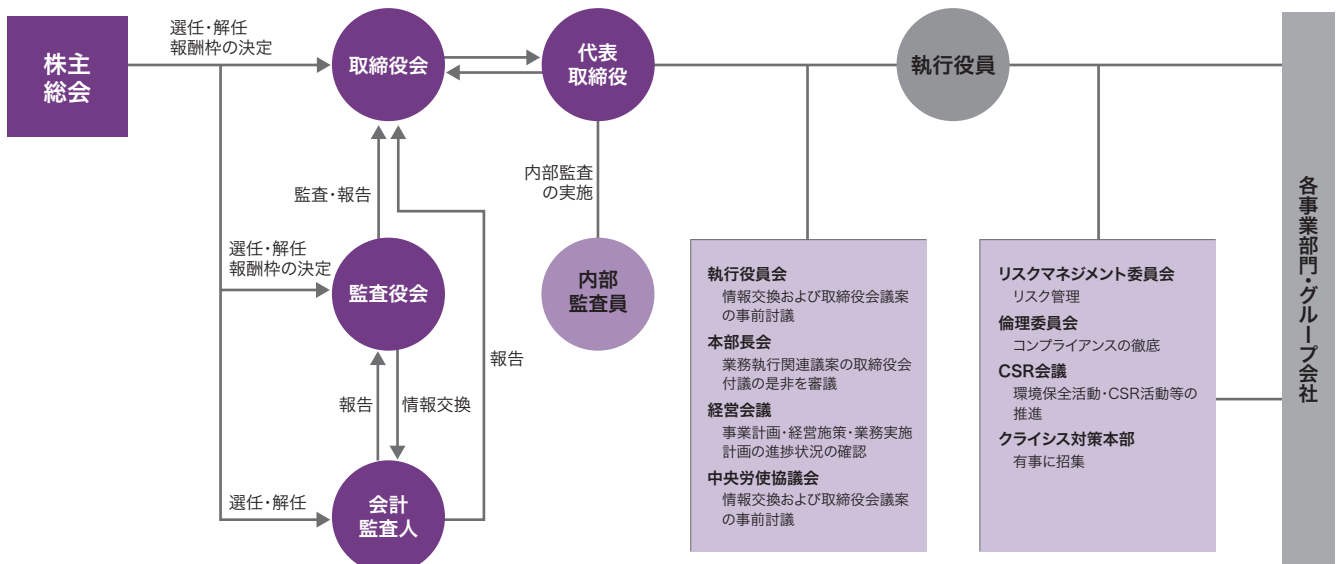
コーポレートガバナンス

EKKでは経営の意思決定をただちに実行に移せるよう常に組織の見直しを行うとともに、大幅な権限委譲と責任の明確化を図り、最大の成果を達成しうる体制の整備に努めています。特に経営会議をはじめとする各種会議には、その重要性に応じ監査役、労働組合の参加を得ることで経営の透明性を保っています。さらに経営トップによる本部・事業部診断は経営層レベ

ルにおける問題点の把握と共通認識が図れる体制をとっています。

また、企業活動の多様化、グローバル化等に伴い企業としてのリスク管理の重要性が増していることから、リスクマネジメント委員会を設置し有事の備えとしています。加えて、全従業員を対象とした行動規範を策定し、モラルの向上を図っています。

コーポレートガバナンス体制



中期経営計画

持続性ある成長への基礎固め

— 10年後の繁栄を期して —

EKKグループは、このたび、「持続性ある成長への基礎固め」と位置付けた新たな3カ年計画を策定しました。

この3カ年計画では、初年度の2011年度は、売上高1,000億円、営業利益93億円の目標を掲げました。そして、最終年度の2013年度には売上高1,200億円、営業利益150億円(営業利益率: 12.5%)を目指し、総従業員数では約5,000名、関連会社44カ国に及ぶ文字通りのグローバルカンパニーへ第一歩を踏み出していく考えです。

当グループは、成長に向け新たな取扱品目の拡充や、シナジー効果を見込めるM&Aなどについても前向きに検討していく予定です。

また、次世代製品開発のための研究開発投資については、ハイブリッドカーを含む新市場向け製品のシーズ発掘と開発に重点をおいて推進していきます。そして、海外拠点と一体となった販売、生産、コスト削減等の活動強化を図るとともに、人材交流によるスキルアップや、グローバル経営力の強化に努めてまいります。

今期につきましては、東日本大震災やタイ国の洪水被害等の外部特殊要因がなくなることから、自動車メーカーを中心に回復の傾向がみられるものの、事業環境の急激な好転はなお期待できず、引き続き厳しい状況で推移するものと想定されます。このような状況におきましても、当社グループは「長期的利益の犠牲のもとに短期的利益を追求しない」という命題を堅持し、持続的成長を実現できる企業グループ構築を目指すためにも「3カ年計画」の達成に向けて全社員一丸となって事業に取り組んでまいり所存です。

リスクマネジメント

事業活動に潜むリスクを認知し、その顕在化を防止するとともに、クライシス(緊急事態)発生時の対応を定めるため、EKKは2003年に「リスクマネジメント方針」および「リスクマネジメント規程」を制定しました。

各本部・事業部および各関係会社は、「リスクマネジメント方針」に基づき、企業倫理、法令順守の徹底およびリスクマネジメントの推進に努めるとともに、これらの活動を通じてより高い企業倫理の醸成を図っています。

リスクマネジメントの運用体制

リスクマネジメント委員会

事業活動に潜在するリスクを抽出・評価して、組織的認識のもと、予防策の推進を図ります。

倫理委員会

会社の事業運営に伴って発生する倫理上の問題に関して、法令、業界のルール、社会規範に照らし、誠実透明かつ適正な、倫理に即した行動を保証する体制を整えます。また、会社が市場からの信頼と評価を得られるような諸施策、および従業員の労働環境を倫理という視点から改善できるような諸施策を推進します。

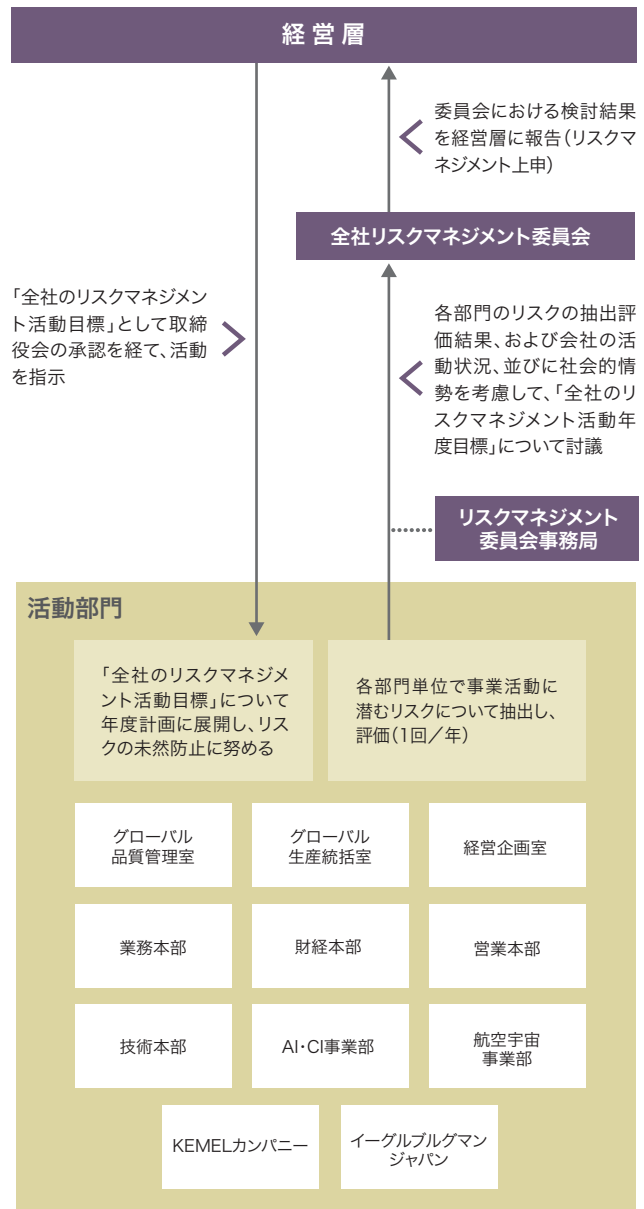
クライシス(緊急事態)対策本部

クライシスが発生した場合、総力を挙げて緊急に状況の早期把握に努めるとともに、迅速・的確な状況判断のもとに、初動体制を確立し、被害の拡大防止を図ります。

倫理相談窓口

従業員から寄せられる倫理疑義事項(法令、業界のルール、社会規範に照らした疑問事項等)に関する相談の解決と、適切な企業行動の維持を図ります。この相談窓口は、社外からの強制的な摘発、従業員等内部者による外部機関への告発、あるいは外部からの批判によってではなく、会社組織自らの力で、従業員の協力を得ながら、不公正な商慣習、違法行為、問題ある取引慣行等を事前に発見し、主体的に解決するための「自浄制度」です。

リスクマネジメント体制



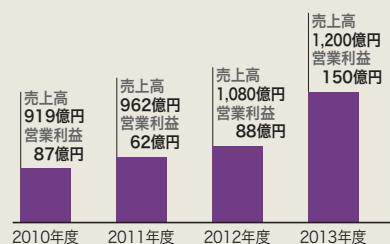
主要推進項目

- 1 グローバル経営力の向上
- 2 人財の育成(人財は新しい価値を創造提案する)
- 3 グローバル生産体制の構築
- 4 品質至上主義の徹底
- 5 10年後に花開く新商品の開発とそれを可能にするコア技術の強化

各事業における取り組み方針

自動車・建設機械業界向け事業 <ol style="list-style-type: none"> 1 グローバル経営基盤の強化と成長市場へのグローバル生産の推進 2 技術伝承と現場力向上 3 安全・品質・環境の弱点強化 4 コア技術深耕と新製品開発 	一般産業機械業界向け事業 <ol style="list-style-type: none"> 1 アジアパシフィック、インドと一体となった経営体制構築 2 適地生産の実践と納期維持率の向上 3 致命欠陥、再発クレームの撲滅
船用業界向け事業 <ol style="list-style-type: none"> 1 アジア市場への本格参入 2 環境配慮型製品の開発 3 グループ力の向上 	航空宇宙業界向け事業 <ol style="list-style-type: none"> 1 技術の伝承とものづくり力の強化 2 海外販売網整備、海外拡販 3 固有技術蓄積による新商品開発

目標経営数値



環境マネジメント

EKKグループ全体で継続的に環境保全活動に取り組んでいくために、環境方針を定め、環境マネジメントを推進する仕組みを確立して、効率的かつ効果的な実践を図っています。

環境マネジメントシステム

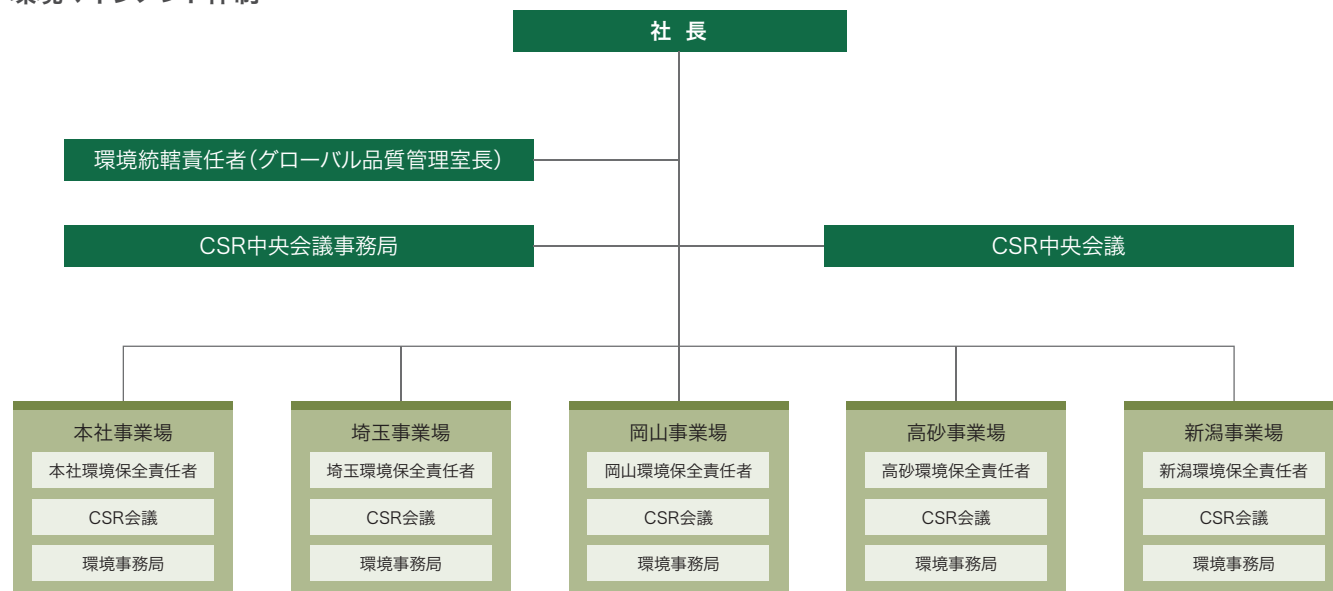
環境管理組織体制

EKKグループでは、全社規模の環境マネジメント体制を整えています。体制の中心となるのは社長を議長とし、各事業場の環境保全責任者で構成される「CSR中央会議」です。

ここで決定された目的・目標のさまざまな取り組みが環境保全責任者によって各事業場に展開されます。

また、各事業場の環境保全責任者を議長とする「事業場CSR会議」が置かれ、ここで確認された各事業場の取り組みは「CSR中央会議」で報告され、経営層によるマネジメントレビューが実施されます。

環境マネジメント体制



ISO14001 認証取得状況

EKKグループでは、本社および国内の生産事業場が環境マネジメントシステムの国際標準規格「ISO14001」の認証を一括取得しています。これにより、同一方針、同一目的・目標のもとに、統一の取れた環境保全管理活動を行っています。2010年6月にKEMEL新潟、KEMEL鋳造部門へ認証拡大を行いました。2011年6月には3年に1度の更新審査を受審し、認証・登録を更新しました。2012年度は国内連結会社である広島イーグル(株)で拡大審査を受審し、認証拡大を図ります。

認証取得状況

企業	サイト
イーグル工業(株)	埼玉事業場、岡山事業場、KEMELカンパニー(高砂事業場、呉事業場、新潟事業場)、EKK営業支店
イーグルブルグマンジャパン(株)	新潟事業場、埼玉事業所、EBJ営業支店
イーグル・エンジニアリング・エアロスペース(株)	
岡山イーグル(株)	
島根イーグル(株)	
イーグルサービス(株)	岡山事務所、浜岡事務所、柏崎事務所
北海道イーグル(株)	
リグナムバイター(株)	東京営業所

環境に関連する法令順守状況

EKKグループで順守すべき法令等は全部で254項目あり、すべての項目について定期的に順守を確認する体制をとっています。

EKKの事業活動に関連する主な環境法令等

- 悪臭防止法
- エネルギーの使用の合理化に関する法律
- 下水道法
- 工業用水法
- 工場立地法
- 浄化槽法
- 振動規制法
- 水質汚濁防止法
- 騒音規制法
- 大気汚染防止法
- 地球温暖化対策の推進に関する法律
- 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律
- 毒物及び劇物取締法
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 特定家庭用機器再商品化法
- ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律
- 河川法
- 瀬戸内海環境保全特別措置法
- 排水基準を定める省令
- 土壌汚染対策法
- 使用済自動車の再資源化等に関する法律
- RoHS指令
- ELV指令
- REACH規制

緊急事態対応

EKKグループでは、燃料油・溶剤・排水処理液等が万が一漏洩した際に備え、さまざまな事態を想定し定期的に緊急事態対応訓練を実施しています。2011年3月の東日本大震災で被災した他企業の経験等も参考にしながら、EKKグループの緊急事態対応のさらなる改善を推進します。



緊急事態対応訓練
(イーグルブルグマンジャパン)



緊急事態対応訓練
(KEMELカンパニー-呉事業場)

環境診断

EKKグループでは半期に一度、各サイト(事業場、関係会社)を訪問し、環境統轄部門が主管となり、環境統轄責任者による「環境診断」を実施しています。この中で、各サイトの環境保全活動に関する実績と計画を検証します。活動の中で生じた問題点を抽出し、その原因を分析して改善を指示します。これらの内容を以降の環境管理活動の計画に確実に反映させることで、環境保全活動のスパイラルアップを継続的に推進します。



環境診断(イーグルブルグマンジャパン)



フォロー教育(イーグルブルグマンジャパン)

ISO14001更新・定期審査および内部監査等

EKKグループでは、環境マネジメントシステムが適正に運用されてPDCAによるスパイラルアップができてきているかを検証するため、監査力量を有する社内監査員による内部監査、および外部審査機関による毎年の審査を実施しています。これらの結果は経営層へ報告し、経営層と問題点や改善事項を共有しながら以降の環境保全活動に展開しています。2011年度は3年ごとの更新審査を受審し、ISO14001システムの継続認証を行いました。2012年度は連結子会社である広島イーグル(株)でも審査を受審し、ISO14001認証範囲の拡大を図ります。



ISO更新審査
(イーグルブルグマンジャパン)



ISO定期審査(埼玉事業場)



ISO定期審査(岡山事業場)



内部監査
(イーグルブルグマンジャパン 西日本支店)

環境目的・実績と目標

当年度、翌年度、翌々年度と3年間の年度別環境目標を設定し継続的に取り組むことで、目標の着実な達成を目指しています。

方針	環境目的	担当事業場	2011年度の現状	2012年度環境目標	2013年度環境目標	2014年度環境目標
製品の開発にあたっては、環境影響に配慮する	会社の技術・資源等を活用し、環境影響の抑制に寄与する製品または環境配慮型製品を開発する	岡山事業場 新潟事業場 高砂事業場	各事業場設計部門の計画に基づき推進	各事業場設計部門の計画に基づき推進	各事業場設計部門の計画に基づき推進	各事業場設計部門の計画に基づき推進
省資源・省エネルギーに努める	CO ₂ 総排出量: 2008年度～2012年度平均で1990年度対比12%削減(京都議定書:1990年度対比6%削減【1990年度:29,140ton】の2倍の目標)毎年の省エネ計画の項目、CO ₂ 削減計画量の100%実施(各事業場の省エネ委員と連携して推進する)	全事業場	22,939ton (2008年度～2011年度平均で1990年度対比21%削減)	省エネ計画進捗100%達成 (2008年度～2012年度平均で1990年度対比12%削減)	省エネ計画進捗100%達成	省エネ計画進捗100%達成
	原油換算エネルギー原単位: 原油換算の生産金額原単位を前年度対比で1.0%削減する	全事業場	前年度対比で2.3%削減	前年度対比1.0%削減	前年度対比1.0%削減	前年度対比1.0%削減
廃棄物の低減と再資源化に努める	リサイクル率: 廃棄物の適正な分別管理により、リサイクル率を2011年度の実績を維持する	埼玉事業場 岡山事業場 新潟事業場 高砂事業場	99.7%	98% [ゼロエミッションの維持]	98% [ゼロエミッションの維持]	98% [ゼロエミッションの維持]
環境影響の継続的改善および汚染の予防に努める	PCB(微量PCB含む)入り設備(装置)を適正に管理する	埼玉事業場 岡山事業場	適正管理維持を実施	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理
	オゾン層破壊物質の排出量: オゾン層破壊物質の大気放出量を適正(各事業場毎の管理指標に従う)に管理する【2020年度までに全廃】 《対象物質:HCFC225》	埼玉事業場 岡山事業場	1,345kg (前年度対比で20%削減)	各事業場毎の指標に従った適正管理	各事業場毎の指標に従った適正管理	各事業場毎の指標に従った適正管理
	地域環境への貢献活動の推進	全事業場	事業場周辺の環境保全活動実施 その他地域貢献活動の展開	事業場周辺の環境保全活動 その他地域貢献活動の展開	事業場周辺の環境保全活動 その他地域貢献活動の展開	事業場周辺の環境保全活動 その他地域貢献活動の展開
	環境に関する顧客問合せに確実に対応する	本社事業場	システム検討	システム検討	システム試行運用	システム本格運用
	グリーン調達率: 原料・材料・部品・製品のグリーン購入の推進を図り、グリーン調達率2012年度までに100%とする	本社事業場 埼玉事業場 岡山事業場 新潟事業場	91.1%	100%	100%	100%
	最終放流口からの油・酸・アルカリ・有機溶剤・その他環境汚染物質の流出防止を図る	埼玉事業場 岡山事業場 新潟事業場 高砂事業場	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)
	土壌・地下水汚染の継続的改善	埼玉事業場	ジクロロメタンによる地下水汚染有り	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理
法規制および同意するその他の要求事項を順守する	溶解炉・ボイラー等から放出する煤塵を適正に管理する	岡山事業場 高砂事業場	管理手順に従った適正管理を実施	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)
	コンプレッサー等の特定施設から発生する騒音・振動を適正に管理する	埼玉事業場 岡山事業場 高砂事業場	管理手順に従った適正管理を実施	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理 (自主基準に基づく監視・測定)
環境方針1-6項全般	環境管理活動の活性化	本社事業場	表彰制度(案)の作成	表彰制度の導入	表彰制度の運用	表彰制度の運用

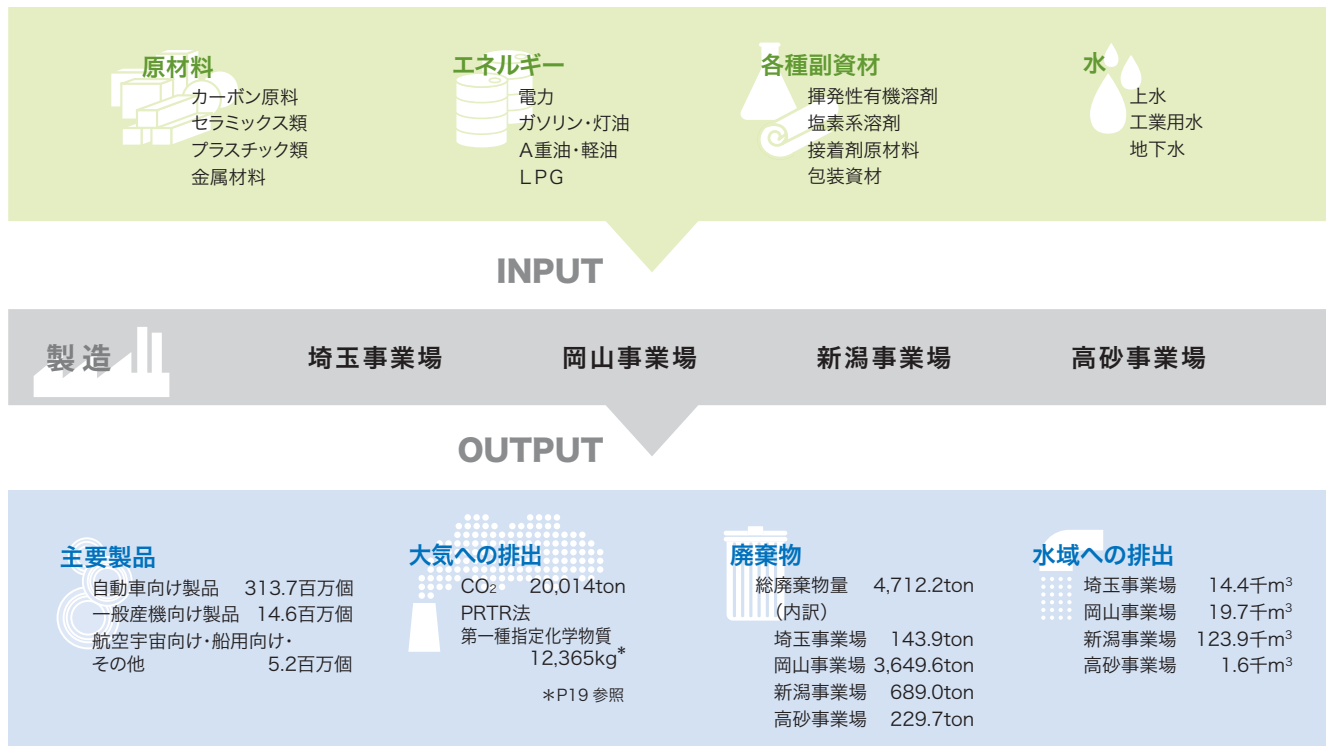
※グリーン調達率=(「グリーン調達ガイドライン」順守取引先数÷「グリーン調達ガイドライン」適用取引先数)×100

※2012年度より省エネや節電効果をより適切に把握することを目的に「エネルギー使用量と密接な関係を持つ値」を原単位分母として各事業場毎で選択する。(省エネ法で規定されている原単位分母の複数化管理)

環境負荷削減の取り組み

地球温暖化防止や循環型社会構築に貢献するため、事業活動によって生じる環境負荷を把握・分析し、省エネルギー、廃棄物削減、有害物質の適切な管理等の環境負荷低減活動に活かしています。

事業活動と環境負荷



※OUTPUTの数値は2011年度の集計の対象範囲での実績を示す

省エネルギーへの取り組み

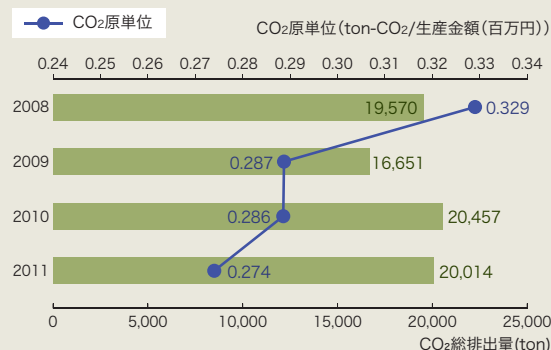
EKKグループでは、省エネルギーによる地球温暖化防止への貢献を重要な課題と捉え、従来より活動を推進しています。各工場では新規設備の導入時等には省エネタイプのを優先して選定しています。

また、事務処理業務が中心の間接部門でも、蛍光灯やPC電源のこまめなOFFやコピー用紙の節減等の地道な省エネ活動を行っています。本社・支店等もISO14001システムに組み込み、パトロールや定期的な内部監査・教育訓練等で省エネルギー活動の活性化を図っています。

この結果、EKKグループのCO₂総排出量は世界的経済不況の影響とその後の急激な回復の影響を受けていますが、長期的なトレンドは低下傾向にあります。省エネ法の「エネルギー原単位を前年度対比で1%以上削減する」という要求事項に対しても、2011年度は前年度対比で約4.1%の削減を実現しており、問題なく達成しました。

2010年度に設立した「省エネルギー検討委員会」では、再生可能エネルギー等の省エネルギーに関連する最新の動向、

二酸化炭素排出量の推移



※上のグラフは、2011年度の集計の対象範囲での推移を示します。
 ※CO₂原単位=CO₂排出量 (ton)/生産金額 (百万円)

業界団体・グループ会社の省エネ事例の情報共有、将来のEKKのCO₂排出量シミュレートや、中長期を踏まえたEKKの今後の省エネに関する課題・重点取組事項等に関する対応等、技術的検討を推進しています。

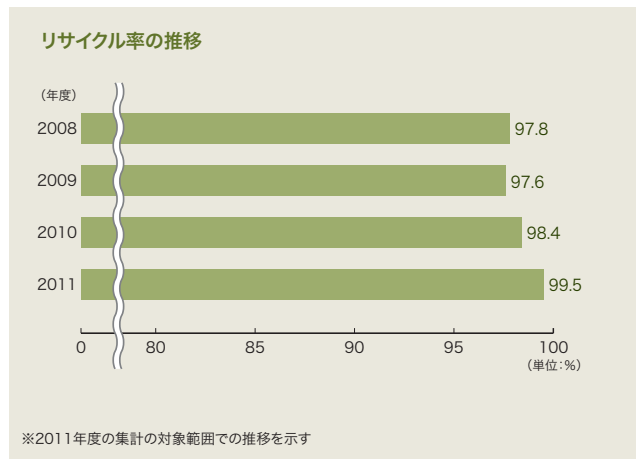
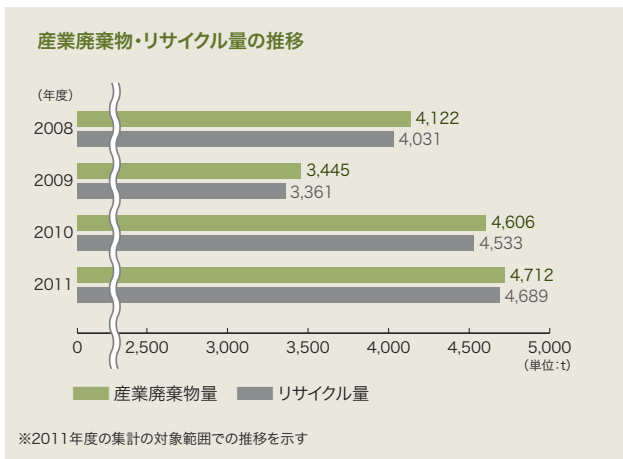
廃棄物削減の取り組み

企業活動で発生する廃棄物の動向については、ステークホルダーの皆様、それもとりわけ周辺住民の方から高い関心が寄せられています。EKKグループではこれを「企業の社会的責任」と捉え、法に従い安全かつ適正に処理しています。

2001年度当初、リサイクルできたのは一部の金属廃棄物のみでしたが、その後、廃プラスチック、カーボン粉、有機汚泥等を

リサイクル化し、リサイクル率を向上させてきました。

これらの活動を通じて2011年度はリサイクル率99.7%まで向上させることができました。循環型社会の実現に向けて、2012年度以降も全ての事業活動でさらなる廃棄物のリサイクル化を進めていきます。

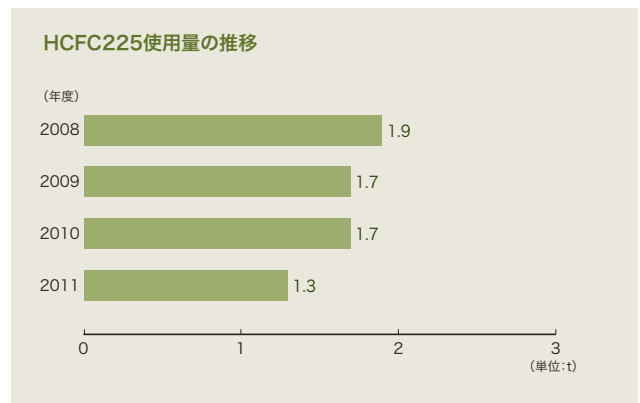


汚染防止・化学物質管理

HCFC225(オゾン層破壊物質)の排出削減

EKKグループでは精密部品の洗浄等にオゾン層破壊物質であるHCFC225を使用しています。2011年度は、一部製品を対象に代替化を完了させることができました。また、HCFC回収装置のメンテナンス頻度を上げることで、大気放出量の削減等

の改善にも取り組みました。その結果、2011年度は統計を開始した2003年度に対してHCFC排出量を77%削減することができました。2020年度までのHCFC225の全廃に向けて、継続して排出量削減活動に取り組めます。



PRTR法への対応

EKKグループでは、指定化学物質の環境への排出量・移動量の届出を義務付けるPRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律)に従い、該当する下記6物質について法規制に基づく届出を行いました。

PRTR法第一種指定化学物質の排出・移動量

政令番号	第一種指定化学物質の名称	排出量(kg)				移動量(kg)	
		大気	公共用水域	事業所土壌	事業所埋立	下水道	事業所外
185	ジクロロペンタフルオロプロパン	665	0	0	0	0	182
186	ジクロロメタン	3,000	0	0	0	0	1,500
258	ヘキサメチレンテトラミン	0	0	0	0	0	2,500
300	トルエン	8,700	0	0	0	0	2,246
308	ニッケル	0	0	0	0	0	20,100
349	フェノール	0	0	0	0	0	1,700
	合計	12,365	0	0	0	0	28,232

土壌、地下水汚染改良への取り組み

埼玉事業場は、1965年の開設以来、1997年まで金属製品の洗浄工程に塩素系溶剤のトリクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンを使用していました。1995年からの自主調査でこれらの塩素系溶剤による土壌汚染が生じていることが判明し、また、その後の調査で地下水汚染が判明しました。土壌汚染については汚染土壌の入替工事を行い、また、地下水汚染については汚染の拡大防止のため事業場敷地境界にバリア井戸を敷設しました。さらに、事業場内に汚染除去井戸を敷設し、浄化作業を継続して実施しながら、その効果を定期的に行政に報告しています。

EU指令(ELV規制*・RoHS規制**)への対応

EUは、材料・構成部品に含有される環境負荷物質を排除するため、ELV規制(自動車業界)では鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを、またRoHS規制(電子業界)ではこれら4物質に加えて臭素系難燃剤(ポリ臭化ビフェニル、ポリ臭化ジフェニルエーテル)の使用を禁止しました。EKKグループではこれらの規制に対応すべく、対象製品のデータベース化と代替化を推進しています。

2011年度は上記環境負荷物質の対象業界向け製品における使用全廃を目標に、代替材の選定と評価をお客様と推進し、代替材への切替えを進めてきました。ご承認いただくための評価試験や協議を継続中の一部お客様につきましても、当該物質の使用全廃に向けた検討をお客様のご指導を仰ぎながら推進していきます。

*ELV規制 EUが2000年10月より施行した、使用済み自動車(End of Life Vehicle)に関する指令。

**RoHS指令 EUが2006年7月より施行した、電気電子機器に関する指令。

調達における取り組み

グリーン調達の推進

EKKグループでは、2008年5月に「EKKグリーン調達ガイドライン」を制定しました。以来、仕入先様に対して原材料・部品・製品・副資材に関する化学物質管理の徹底を要請し、グリーン調達の推進に努めています。各事業場では仕入先様をお招きして、説明会を実施する等の活動を展開しました。2011年度のグリーン調達率は91.9%となりました。

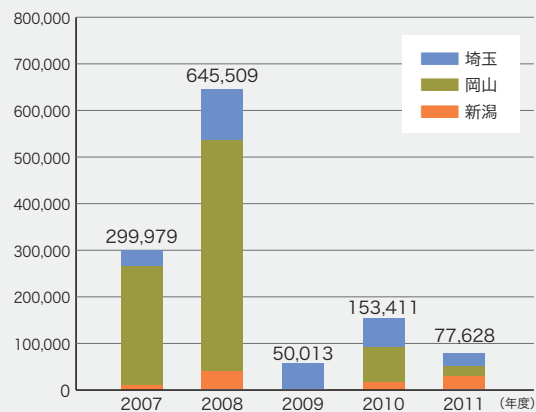
2012年度からは「NOKグループグリーン調達ガイドライン」を採用し、NOKグループと連携した管理・運用を展開します。

環境投資

2011年の主な投資内容

- (1) 埼玉事業場(27,261千円)
エネルギー監視装置2期工事、インバータ式省エネコンプレッサ設置等
- (2) 岡山事業場(23,096千円)
成形機の空冷を水冷化、蛍光灯LED化等
- (3) 新潟事業場(27,271千円)
エアコンへのインバータ装置取り付け工事等

環境投資実績 (単位: 千円)



節電への取り組み

東日本大震災による電力不足に伴い、イーグル工業(株)埼玉事業場(EKK埼玉事業場)とイーグルブルグマンジャパン(株)新潟事業場(EBJ新潟事業場)が電気事業法第27条による規制対象となりました。2011年夏、EKKグループでは、この2事業場をはじめ全社で節電に取り組みました。

規制対象事業場での取り組み

電気事業法第27条による電力使用制限の規制対象となったEKK埼玉事業場とEBJ新潟事業場では、デマンド監視・制御装置を設置し、ピーク電力の「リアルタイム確認」とエアコン等の社内インフラの「自動ON/OFF制御」が可能な体制をとりました。

実施にあたり事前のシミュレーションを行なったところ、EBJ新潟事業場ではピーク電力の削減が難しいことが予測されました。そこで、古いエアコンにインバーター制御装置を取り付けた結果、大幅な節電につながりました。あわせて一部の製造ラインでは輪番操業を導入し、規制日の平日はラインの半分の稼働にとどめ、土日にフル稼働させるようにしました。また、ピーク電力が超過する場合に備え、非常用自家発電機も導入

しました。

さらに照明・設備の省エネタイプへの切り替えも積極的に行いました。

両事業場とも、30分ごとにリアルタイムでデマンド監視を行い、ピーク電力が社内規定のアクションラインを超過した場合には、直ちにエアコンをOFFにする等、社内ですら定めた追加のピーク電力削減策を実施するよう努めました。この30分ごとのデマンド電力推移、および日々のピーク電力推移は、グラフ化して事業場の全従業員に公開し、全員で節電に取り組みました。

その結果、全ての規制対象日でピーク電力を政府規制値の15%以下に抑制することができました。加えて、この期間中の電力使用量は、前年比で約20%減となりました。

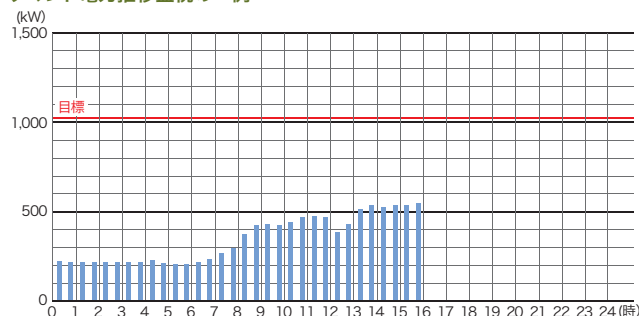


インバーター制御装置
古いタイプのエアコンに取り付けたインバーター制御装置。これにより、大幅な節電につながりました

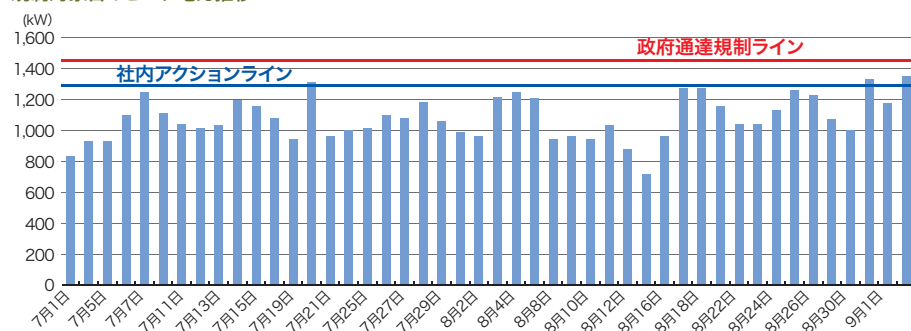


自家発電装置
計画停電の実施や、ピーク電力が基準値を超過する危険性が生じた場合の備えとして導入した自家発電装置(イーグルブルグマンジャパン)

デマンド電力推移監視の一例



規制対象日のピーク電力推移



本社・営業支店・事務部門での取り組み

2011年度夏、EKKの本社と営業支店、および事務部門では下記の節電対策を定め、全社で取り組みました。

- エレベーター等、インフラ設備の使用制限
- クールビズ基準の大幅な緩和
- 照明の間引き(削減率を定めて実施)
- 扇風機、サーキュレーター導入によるエアコンの使用抑制
- 窓への断熱フィルムの貼り付け

その結果、本社・営業支店では夏期(7月～9月)の電力使用量が2010年度夏に対して約45%減となりました。

この取り組みを通して、全員が電気の大切さを改めて自覚しました。2012年度も引き続き、全社で徹底した省エネ・節電に取り組んでいきます。

私のエコ活動



イーグルハイキャスト(株) 製造2部
岡野 亜有

当社は海と山とが隣接した、自然に恵まれた地(島根県江津市)にあります。移動手段は自動車がメインとなるので、「急ブレーキ・急発進はしない」等、月並みですが環境を守るためエコドライブを心掛けて通勤しています。これからもCO2CO2(コソコソ)削減していきます。

従業員・地域とともに

従業員のためにも、また地域の人々のためにも、安全で衛生的な職場環境を整備していくことが重要な責務であると考えています。今後とも労働安全衛生の確保をはじめ、従業員の心と体の健康づくり、交通安全の推進等に積極的に取り組んでいきます。

労働安全衛生の取り組み

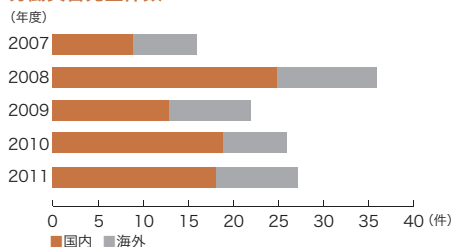
EKKグループでは「安全衛生方針」を定めるとともに、事業場ごとに事業場長を総括安全衛生管理者とする安全衛生管理組織を設け、OHSAS18001のシステムを導入して安全衛生活動を推進しています。各事業場事務局と本社総務部とが連携することで、この活動に全社レベルで取り組んでいます。

●「安全衛生方針」については、イーグル工業株式会社ホームページでご紹介しています。<http://www.ekk.co.jp/csr/safe.html>

国内外労働災害発生状況

労働災害は、不安全状態（設備の安全装置欠如等）や不安全行動（人の行動）によって発生するといわれています。EKKグループでは、不安全状態の対策としてこれまで実施してきた新規設備・機械の点検パトロールに加え、不安全行動の抑制策として、不安全行動によって生じる危険状態を体感できる設備を導入しました。2012年度より各所で順次体感していく場を設け、不安全行動による労働災害の発生防止に努め、設備と人の両面で安全衛生を充実させていきます。

労働災害発生件数



安全講話
(イーグルブルグマンジャパン)



年始安全決起集会
(KEMELカンパニー)



安全パトロール
(イーグルハイキャスト)



KY(危険予知訓練)教育
(イーグルブルグマンジャパン)



重量物取扱い教育
(安全衛生事務局研修)



安全衛生教育
(Eagle Industry Taiwan Corporation)

心と体の健康

EKKグループでは、従業員の心身の健康維持・増進を図るため、24時間電話健康相談サービス(無料)を実施しています。また、産業医、看護師、管理職が共同して従業員のメンタルヘルスケアに取り組む等、心身の健康管理を積極的にサポートしています。

2011年度電話健康相談実績

相談内容	件数	相談内容	件数
健診・ドックに関する相談	7	育児相談	121
健康保持・増進に関する相談	8	夜間・休日の医療機関の案内	28
気になる体の症状についての相談	312	ストレスおよびメンタルヘルスに関する相談	47
家庭看護	64	医療機関の相談	39
治療に関する相談	268	その他	26
母子保健に関する相談	16	合計	936

※上記件数は、NOK、EKKグループの合計

交通安全の取り組み

EKKグループでは、交通安全教育の一環として交通安全運動を実施しています。

また、無事故・無違反の従業員に対しては、5か年ごとに表彰しています。

交通事故や交通違反を犯した従業員には、その運転が業務上か私用かを問わず「事故報告書」または「違反届」を提出してもらい、職場ごとに自戒を促し、再発防止に努めています。



交通マナー点検
(イーグルブルグマンジャパン)



交通安全教育
(本社)



交通安全声かけ
(岡山事業場)

主な安全関係の設備投資・法定点検費用

2011年度の主な投資内容（修繕含む）/計67百万円

- (1) 本社事業場(5,293千円)
危険体感設備
- (2) 埼玉事業場(2,696千円)
作業環境測定、消防設備法定点検
- (3) 岡山事業場(36,089千円)
防災倉庫建設、防災用品購入、ポケットコールシステム
- (4) KEMELカンパニー(14,329千円)
溶解炉安全対策、棚・ロッカー転倒防止対策
- (5) イーグルブルグマンジャパン 新潟事業場(9,405千円)
動力プレス法定点検、消防設備法定点検



品質への取り組み

EKKグループでは、お客様の信頼に応え続けていくために、品質を最優先した製品・サービスの提供に努めています。また、お客様ニーズを的確にとらえ、製品・工程の改善を継続的に実現していくことで、お客様満足の上に取り組んでいます。

品質向上に向けた継続的な取り組み

製品の品質に対するお客様の要求は年々厳しくなっており、また、一方で製造技術や設備もますます高度化・複雑化しています。このような状況に対応するためには、ISO9001(品質マネジメントシステム-要求事項)、ISO/TS16949(自動車生産及び関連サービス部品組織のISO9001適用に関する固有要求事項)、JIS Q 9100(航空宇宙品質マネジメントシステム)等を導入し、これらを適確に維持・運用していく必要があります。イーグル工業ではISO9001等の品質の国際規格認証を取得して、品質向上活動を推進しています。

現場での品質改善活動



各現場では、作業ごとの目的・目標を明確にすることで、効果的・効率的に品質改善活動を推進しています。

お客様の満足

製品

工程上の潜在的な諸問題を予測して、これを事前に解決するため、FMEA*1などの手法を用いて工程の分析・改善を行い、製造プロセスを決定しています。また、作業の安全、品質の安定、作業の効率化を図るため、作業内容を標準化し、明確にしています。

Action(処置)

継続的改善

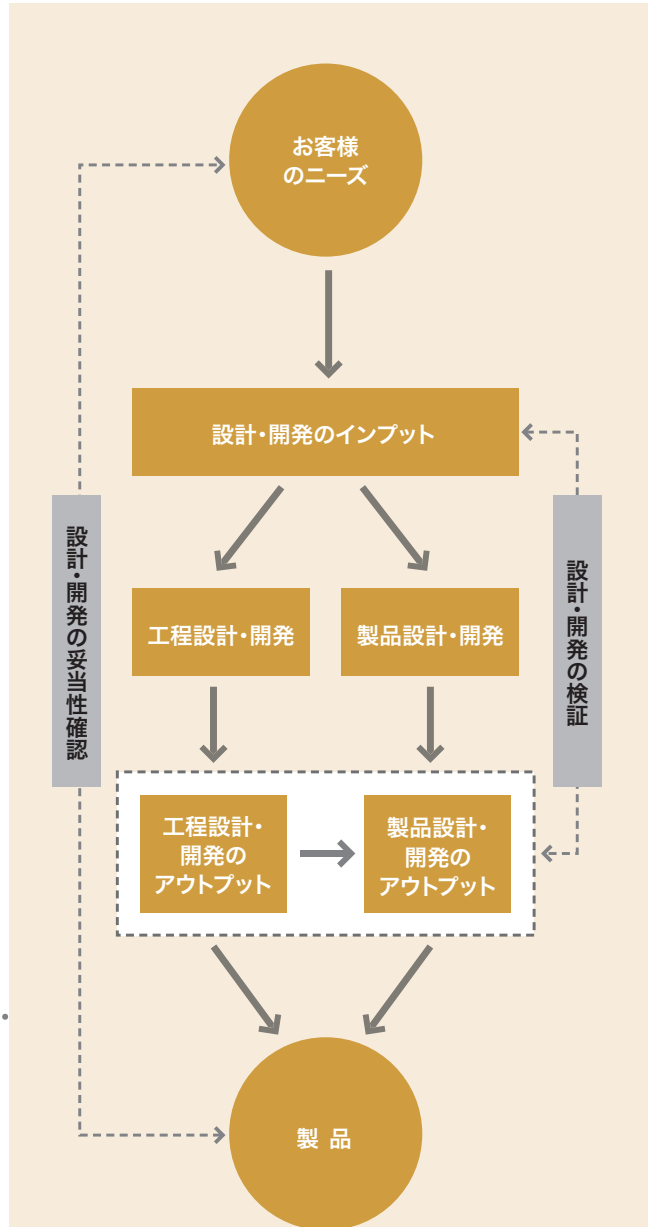
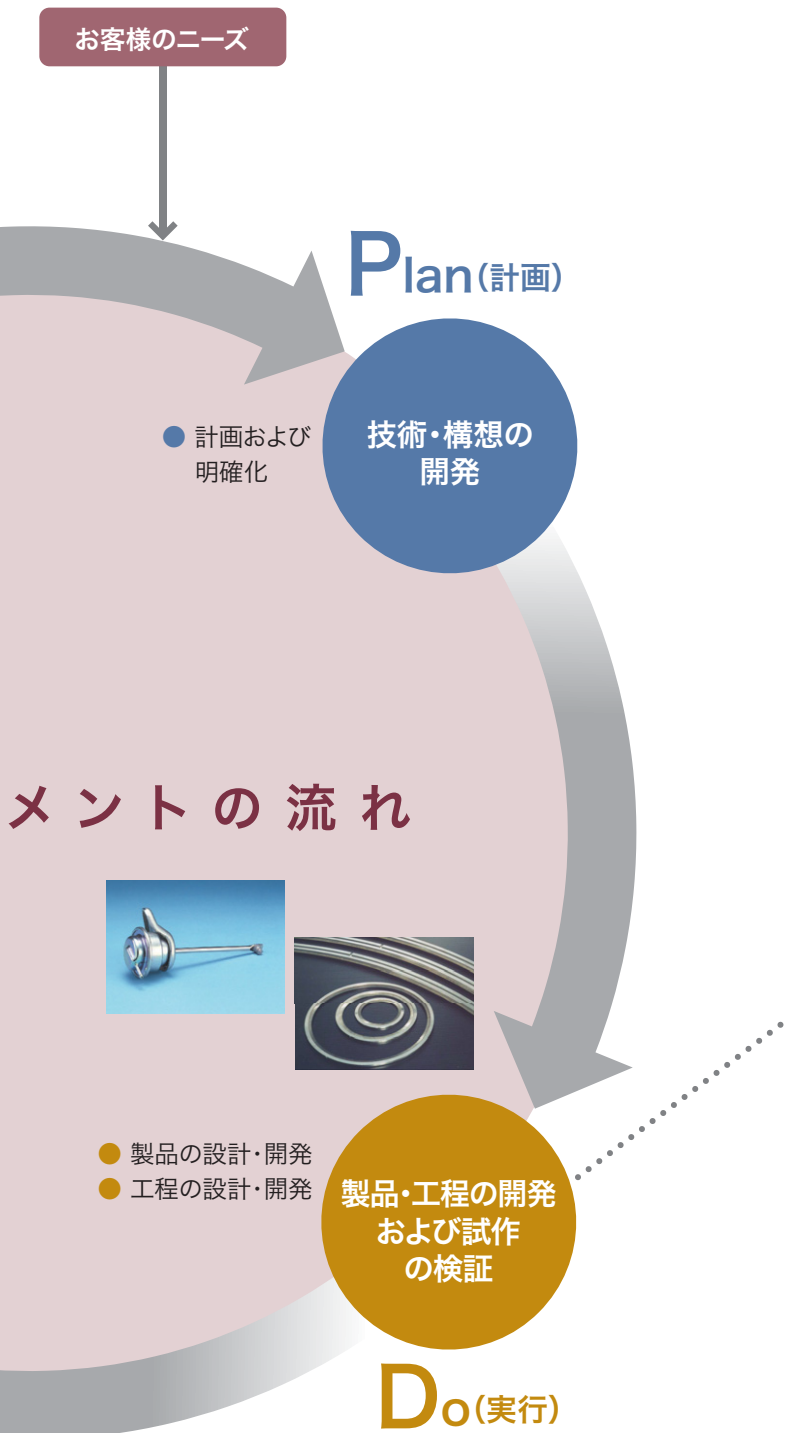
- フィードバック評価および是正処置

品質マネジ

- 製品・工程の妥当性確認

製品の適合性
および工程の
妥当性確認

Check(調査)



設計では、潜在的な製品の故障を予防するため、設計のFMEA*1などを用いた分析・改善、CAE*2を用いたシミュレーション解析・改善などを行い、CADを用いた設計を行っています。また、全ての設計アウトプットが設計インプット要求事項を満たすことを確実にするための試験の実施（設計検証）、製品が規定されたお客様のニーズ・要求事項に適合することを確実にするための試験の実施（設計の妥当性確認）などを実施し、製品の保証をしています。

*1: FMEA(Failure Mode and Effects Analysis)とは、製品や工程に関する潜在的故障とその影響を認識して評価を行い、それらの発生機会を解消または減少させ得る処置を明確にし、その経過を文書化する、故障・不具合の体系的分析方法。

*2: CAE(Computer Aided Engineering)とは、設計・開発工程において製品の強度や耐熱性、機能や性能を確認するコンピュータシミュレーションのこと。

海外グループ会社

EKKグループは「グローバル・アンド・パブリックカンパニー」をキーワードに、ドイツのメカニカルシールメーカーであるブルグマン社と技術・製造・営業、さらには資本分野を含む全面提携を行い、強固なアライアンス関係を構築しています。

欧米諸国や、新興国として成長著しい中国、インドをはじめとして世界45カ国に子会社・関連会社と合わせ100数社を有し、世界三大グローバル・メカニカルシール・プレイヤーの一角を形成しています。

生産および販売拠点(39社)

自動車・建設機械業界向け事業

- ★Eagle Industry Taiwan Corporation(台湾)
- ★NEK Co., Ltd.(韓国)
- ★Eagle Industry (Wuxi) Co., Ltd.(中国)
- ★Eagle Simrax B.V.(オランダ)
- ★Eagle Industry France S.A.S.(フランス)
- その他8社

一般産業機械業界向け事業

- ★EagleBurgmann Australia Pty. Ltd.(オーストラリア)
- ★EagleBurgmann New Zealand Ltd.(ニュージーランド)
- ★P.T. Eagle Industry Indonesia(インドネシア)
- EagleBurgmann Germany GmbH & Co. KG(ドイツ)
- その他21社

船用業界向け事業

- ★Eagle Materials Korea Co., Ltd.(韓国)

販売拠点(44社)

自動車・建設機械業界向け事業

- ★EKK Sales Europe B.V.(オランダ)
- その他3社

一般産業機械業界向け事業

- EagleBurgmann France S.A.S.(フランス)
- EagleBurgmann Italia s.r.l.(イタリア)
- その他32社

船用業界向け事業

- ★KEMEL EUROPE LIMITED(英国)
- ★KEMEL USA INC.(米国)
- ★KEMEL Asia Pacific Pte. Ltd.(シンガポール)

航空宇宙業界向け事業

- ★Eagle Engineering Aerospace Singapore Pte. Ltd.(シンガポール)
- その他2社

その他(13社)

自動車・建設機械業界向け事業

- ★EKK INC.(米国)
- ★Eagle Europe GmbH(ドイツ)
- その他3社

一般産業機械業界向け事業

- ★EBI Asia Pacific Pte. Ltd.(シンガポール)
- EBI Atlantic A/S(デンマーク)
- EBI Asia Pte. Ltd.(シンガポール)
- EBI Middle East A/S(デンマーク)
- その他4社

- ★：連結子会社
- ：持分法適用会社

Eagle Simrax B.V. (オランダ)



1975年に独フロイテンベルグ社との合弁でドイツに設立したSimraxGmbH社を源流に、2001年オランダにSimrax B.V.を設立。2009年、EKKの完全子会社となる。欧州シール事業の拠点としてドイツ、フランス系顧客を中心にウォーターポンプ用シール、カーエアコン用リップシールの設計、製造、技術サポート、実験まで、幅広い活動を行っている。

EagleBurgmann India Pvt. Ltd.(インド)



2009年、イーグル工業(株)とブルグマン社それぞれのインド子会社が業務統合して誕生した。インド国内3箇所の製造拠点および16の営業店ネットワークを活かし、メカニカルシール各種の製造、販売を展開。将来性の高いインド市場でのシェアは50%を超え、グループで重要な位置付けにある。

EKK Eagle (Thailand) Co., Ltd.(タイ)



1992年にNSO(Thailand) CO., Ltdとして設立され2007年に現社名に変更。二輪車用リードバルブ、自動車用アクチュエータ・ウォーターポンプシール・カーエアコン用リップシールなどを生産販売。2013年にはトランスミッション用ソレノイドバルブの生産に向け準備中。

Eagle Industry Taiwan Corporation(台湾)



1979年6月、EKKで初の海外グループ会社として設立された。EKKおよびNOKの技術支援により、リードバルブ、ウレタンパッキン、オイルシール等を生産。近年、台湾では、バイクの燃料供給装置がキャブレターから効率の良いFI(フューエルインジェクション)へと切り替わりつつあり、これに伴い、厳しい排ガス規制に適合したソレノイドバルブの生産にも着手している。

「EKKグループ CSR報告書 2012」へのご意見、ご感想をお寄せください。

「EKKグループ CSR報告書 2012」をお読みいただきありがとうございました。

皆さまから読後のご意見、ご感想をいただき、今後のCSR活動や本報告書の作成に役立てていきたいと考えています。つきましては、お手数ですが、下記アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

ご回答
送付先

イーグル工業株式会社
業務本部 総務部 CSR課

FAX.03-3432-5448

Q1 本報告書をお読みいただいたご感想をお聞かせください。

- | | | | | | |
|----------|-----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| わかりやすさ | <input type="checkbox"/> 大変わかりやすい | <input type="checkbox"/> わかりやすい | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> ややわかりにくい | <input type="checkbox"/> わかりにくい |
| 読みやすさ | <input type="checkbox"/> 大変読みやすい | <input type="checkbox"/> 読みやすい | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> やや読みにくい | <input type="checkbox"/> 読みにくい |
| 記事のボリューム | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> やや多い | <input type="checkbox"/> ちょうどよい | <input type="checkbox"/> やや少ない | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| 記事の内容 | <input type="checkbox"/> 大変充実している | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> やや物足りない | <input type="checkbox"/> 物足りない |

Q2 本報告書で印象に残った項目を下からお選びください(複数回答可)

- 表紙 目次 大きな地球を守る、確かな技術 トップメッセージ くらしと社会を支えるEKKグループ
- 特集 世界の自動車、建機を支える…自動車の安全、快適、環境に貢献するEKKのバルブ技術
- 特集 世界の自動車、建機を支える…過酷な使用条件で高い信頼性を発揮するEKKフローティングシール
- CSRマネジメント 環境マネジメント 環境負荷削減の取り組み 節電への取り組み
- 従業員・地域とともに 品質への取り組み 日本と世界に広がるEKKグループ 私のエコ活動

Q3 本報告書の項目を一部割愛した冊子版報告書も公開していますが、冊子版はご覧になりましたか。

- 見た 見ていないので、見ようと思う 見ていないが、今後も見るかわからない 見ようと思わない

Q4 本報告書やEKKグループのCSR活動について、ご意見・ご感想・ご提言がありましたらお聞かせください。

Q5 本報告書をどのような立場でお読みになりましたか。

- お客様 株主・投資家 当グループ事業場等の近隣にお住まいの方 政府・行政関係者 報道関係者
- NGO・NPO 企業・団体の環境担当者 調査・研究機関 学生 当グループ従業員
- その他()

ご協力ありがとうございました。お差支えのない範囲で、下記にご記入ください。

ご記入いただいた個人情報は適切に管理し、本報告書のアンケート情報としての利用に限定し、ほかの用途には一切使用いたしません。

お名前

性別

年齢

男性・女性

歳

ご連絡先(□ご自宅 □勤務先)

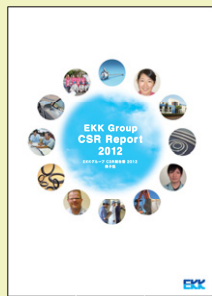
〒

E-mail

ご職業

部署・役職名

EKKグループ CSR報告書 2012 冊子版のご案内



本誌(WEB版)の掲載内容から「経営体制」「環境報告」「品質管理」を割愛した、ダイジェスト版の冊子も発行しています。

<http://www.ekk.co.jp/csr/csr-report/csr-report-2012.pdf>

さらに、下記について、WEBページでご紹介しています。

- リスクマネジメント方針
<http://www.ekk.co.jp/csr/risk.html>
- 事業活動における倫理上の行動指針
<http://www.ekk.co.jp/csr/ethics.html>
- 安全衛生方針
<http://www.ekk.co.jp/csr/safe.html>
- 環境方針
<http://www.ekk.co.jp/csr/env.html>
- EKKグリーン調達ガイドライン
<http://www.ekk.co.jp/csr/green.html>



イーグル工業株式会社

〒105-8587 東京都港区芝大門1-12-15 正和ビル

<http://www.ekk.co.jp/>